

令和4年度

奈良県公立高等学校入学者一般選抜学力検査問題

国語

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

— 次の文章を読み、各問いに答えよ。

私はカタツムリがあせつたり、取り乱したり、いらだつたりしたところを見たことがない。こんなにも平常心を保っている生きものが他にいるだろうか。雨の季節、コンクリート壆や葉っぱの上を、どことも知れない目的地に向かって進む彼らを目にする、慌て者の私など、この粘り強さを見習わなくてはと思うほどだ。

さて、今回いろいろと調べていて一番驚いたのは、ナメクジはカタツムリの進化系であるという事実だった。二つは同じ仲間だが、重くてかさばる殻を脱ぎ捨て、小さな隙間にも隠れるができるよう進化したのがナメクジなのだ。^① てっきり逆だと思っていた。より A フクザツ

になるばかりでなく、単純になることもまた進化なのか、と気づかされた。それを知るといつそう、カタツムリが愛おしくなる。「こんなもの、邪魔」と言って殻を捨て去った仲間を見送り、その殻を背負い続ける。時には、重たいなあと思うこともあるだろう。けれどそんな素振りはみじんも見せず、黙々とした態度を貫く。

もちろん、殻を捨てなかつたのにはきちんとした理屈がある。『カタツムリ・ナメクジの愛し方』(脇司著)によれば、周りの空気が乾燥した時、中に隠れて耐える。外敵から防御する。内臓の形を保持する。等々が理由のようだ。確かに、いかにも柔らか B そうで無防備な胴体(軟体部)に比べ、殻は強固で安定している。この中に逃げ込みさえすれば大丈夫、という安心感を与えてくれる。しかも内臓を守っているのだから、なくてはならない存在だ。脇先生によれば、カタツムリの殻を壊して解剖すると、肺などの内臓が「ぐろん」とすぐに崩れてしまうらしい。

殻の強固さと胴体の柔らかさの質感に C サ がありすぎるため、そ

れらが一続きの体とは思えず、ちょっとつまめば殻は簡単に身から外れそうな気もあるが、そうはいかないのである。^② 一旦、背負うと決意したからは、生涯それを下ろすことはできない。

卵から生まれ出たばかりの小さなカタツムリも既に、その小ささにふさわしい殻を背負っている。どんなに小さくとも、親と同じ形をし、数は少ないながら殻にはちゃんと巻きもある。それを考えると、殻こそがカタツムリの存在を証明する重要な証拠だという気がしてくる。

ここからカタツムリは巻きの数を増やし、殻を大きくしてゆく。殻の内側に接する外套膜^{がいとうまく}という器官から殻の成分が分泌されて、少しづつ成長する。カタツムリの仲間は世界に約三万三千~三万五千種類、そのうち日本には約八百種類が生息しているらしいが、それぞれが異なる色や形や模様の殻を持っている。くつきりした縞^{しま}がある、半透明で内臓が透けている、こん棒のよう細長い、殻のてっぺんがとがっている、乳白色、こげ茶、緑、薄ピンク……。図鑑を眺めていると飽きない。

こんなにもさまざま個性を持つた殻が、自然の片隅で地味に暮らしている陸貝から生まれ出していること。しかも外の世界にある材料に頼るのではなく、自分の体に元々授けられたものだけを使って、独自の美を作り出していること。もうそれだけで、尊敬に値する。軟体部と殻、このきついコントラストを見事に融合させたうえに、個性的な美を表現しているのである。

芸術は別に人間だけの特権ではない。私たちが生きている世界のいたるところに、誰に評価されることも求めないまま、ひつそりと美を創造しているものたちがいる。そんなふうに想像すると、小説が書けないと言つて嘆いている自分がひどくちっぽけに思えてくる。

近所にある西宮市貝類館を訪れた時、西宮の甲山周辺でよく見られる、クチベニマイマイが展示されていた。白っぽい殻の、口の部分がうつすら赤みを帯び、それが名前の由来となっている。その赤色が奥ゆ

かしく、おしとやかな印象を受けるが、説明には好奇心旺盛な性格、と書かれていた。例えば目新しい餌を与えられると、一番に触角をのばして近づいてゆくのかもしれない。カタツムリだからと言って皆がのんびりしているわけではなく、性格に個性があるのも面白い。

新美南吉の童話『でんでんむしのかなしみ』では、一匹のでんでんむしが、ある日、自分の殻の中にかなしみが一杯詰まっていると気づき、絶望する。友だちを訪ね歩き、不幸せを訴えるが、皆もそれぞれに自分のかなしみを背負っているのだと知られ、嘆きを乗り越える。

カタツムリと人間の心がこれほど密接に結びついた文学が、他にあるだろうか。カタツムリの殻とは何なのか。中には何が入っているのか。彼らを見るたび、自らに引き寄せて考えずにはいられない。自分の背中にも透明な殻があつて、中にはきっと厄介なあれこれが詰まっているのだろう。しかし死ぬまで背負い続けてゆくのだから、それに押し潰されることははあるまい。カタツムリだって、その重さにちゃんと耐えている。

(小川洋子「カタツムリの殻」による)

(注) 陸貝 || カタツムリなど陸上で生活する貝

コントラスト || 対比

(一) □ A、Cの片仮名を漢字で書き、□ B、Dの漢字の読みを平仮名で書け。

(二) 線①について、筆者が「思っていた」内容を文章中の言葉を用いて簡潔に書け。
—— 線②が直接かかる部分はどれか。次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 背負うと
ウ 生涯それを
イ 決意したからには
エ 下ろすことはできない

(四) —— 線③と筆者が述べるのはなぜか。文章中の言葉を用いて二十五字以内で書け。

(五) 次の□内は、文章中のa～dのどの段落について説明したものか。最も適切なものをa～dから一つ選び、その記号を書け。

筆者が意外性を感じた経験を示して、読者にカタツムリへの親しみをもたせている。

(六) この文章で筆者が言いたい内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 平常心を保つて生きるカタツムリのように、自分も自らのペースで作品を創り出し、小説家として成功する道を模索しよう。
イ 黙々と殻を背負い続けるカタツムリのように、自分も日頃背負つているいろいろなことにくじけることなく進もう。

ウ それぞれが異なる個性の殻を持つカタツムリのように、人間も一人一人異なる存在であるので、互いの違いを尊重しよう。

エ 周りに評価を求めることがなく、ひつそりと美を創造するカタツムリのように、自分の価値観を大切にしよう。

(七) この文章の述べ方の特色として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 筆者の思いを、情景描写に重ねて具体的に述べている。
イ 筆者の思いを、時間の経過に従つて詳細に述べている。
ウ 筆者の思いを、客観的な情報も交えながら素直に述べている。
エ 筆者の思いを、次々と主題を変えながら自由に述べている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

自然科学的なものの見方は、「私的」であやふやなものを取り除いていけば、誰からも同じように観察できる「ものの本体」だけがそこに残されると考えます。そうすれば、わたしたちのそのときどきの視点から見えるものの見え姿に惑わされることなく、ものを「^①客観的」に把握することができると思うのです。

しかしわたしたちの、何かを見て美しいと感じたり、何かを食べておいしいと感じたりするといった具体的な経験について見てみますと、そこでは客観的な「ものの本体」と、その一時的な現れというように、

二つのが別々のものになつてゐるでしようか。

最初からだとえはわたしにはねものは単なるものとしてではなくいしさを覚えさせるものとして、あるいはわれわれに恐怖を与えるものとして現れてきています。そこに二つの世界の隔たりはないのです。わたしたちの世界を、「もの」それ自体の世界と現象の世界に分けてしまふと、このわたしたちが具体的に経験していることがどうぞそこなわれてしまうのではないでしようか。

たとえばわたしがいま、われを忘れてピアノの美しい調べに聞きほ
れているような場合のことを考えてみましょう。その場合、そこにまさ
にその調べの美しさが出現しています。その美しさを説明しようとして
ピアノの響きを空気の振動に還元し、その振動が聴覚を通して脳に伝わ
つてわたしたちはピアノの音をピアノの音として認識しているのだと言
うと同時に、その調べの美しさは雲散霧消してしまいます。⁽³⁾わたしの
経験のなかにあつたリアリティがまったく失われてしまうのです。

わたしたちはまさにこのリアリティのなかで生きています。それがわたしたちの生を作りあげています。それがわたしたちの生活をいきいきとして張りのあるものに、また豊かなものにしてくれているのです。そ

ここでこそわたしたちは生きる意欲を喚起されます。わたしたちが生きる意味を感じ、生きがいを見いだすのも、そのような世界においてのことです。

そのようなわたしたちの生の営み、そしてそこで感じられる生の充実は、たしかに移ろい、変化するものです。変わることなく、ありつづけるものではありません。また、人によつても受けとり方が異なります。しかし、そうだからといつて、それはあいまいなものとして真理の領域から排除されるべきでしようか。むしろ、自然科学が明らかにしてくれるさまざまな知見も、そのようなわたしたちの生の営みに関係づけられて、はじめて意味をもつてくるのではないでしようか。

④ 無視点的な三次元空間に置き直された「もの」には色や音、味はありません。そこにあるのは、ただ形をもつた「もの」とその運動だけです。それに対してわたしたちが具体的に経験していることには豊かな「表情」があります。たとえばリンゴはわたしたちにとても美しく、つややかに見えます。それを実際に口にすれば、さわやかな甘みと酸味が口いっぱいに広がります。

わたしたちが単なる物体と考えていいるものにも、つねにこういう「表情」が伴っています。そういう「表情」があるからこそ、わたしたちの経験はリアルなものになっているのです。⁽⁵⁾わたしたちはただ物体に囲まれて生きているわけではないのです。

たとえばわたしがいま座っている机や、いま使っている万年筆は、ただ単に物としてそこにあるわけではありません。この机はさまざま「こと」ととともに、たとえば父から譲り受けたものであり、大切に使いつづけてきたということとともにあります。また、そのために強い愛着を感じているということとともにあります。一方、日頃使っている万年筆を前にして、わたしは、使い古したものではあるが、他の万年筆にない独特の書き易さがあることや、あるいは人生の節々でそれを用いて大切な

文字を記してきたことなどを思い浮かべます。つまり、この机なり、万年筆は、単なる物体であるのではなく、先ほど言った「表情」で満たされています。この「表情」がわたしたちの世界に独特の色合いを付与していると言つてよいでしょう。

こうしたことからいかに「表情」がわたしたちの生活のなかで重要な意味をもつてゐるかがわかると思います。ふだん、あまり意識しなくても、わたしたちはそうした「表情」に取り囲まれて生きているのです。その「表情」があるからこそ、わたしたちの世界がいきいきとしたものに感じられ、生きる意欲もまた刺激されるのです。

(藤田正勝『はじめての哲学』による)

—— 線①の対義語を漢字で書け。

—— 線②を、ほぼ同じ意味の漢字二字の熟語に言い換えよ。

(三) (二) (一)
—— 線③とあるが、「リアリティがまったく失われてしまう」のは、わたしたちの世界をどうとらえて「ピアノの音」を説明するからか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 「ものの本体」から成り立つてゐるわたしたちの世界を、そのときどきの一時的な現れととらえて説明するから。

イ 「私的」であやふやなわたしたちの世界を、「もの」それ自体の世界ととらえて説明するから。

ウ 「もの」それ自体の世界と現象の世界には隔たりがないわたしたちの世界を、別々のものととらえて説明するから。

エ 「ものの本体」とその一時的な現れで構成されているわたしたちの世界を、一つのものととらえて説明するから。

(四)
—— 線④とは、どのような「もの」か。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- (五) ア 誰のものでも構わない、自由な見方で把握された「もの」。
イ わたしたちの見方を離れ、ただそれ自体として存在する「もの」。
ウ わたしたちそれが、偏りのない見方で認識した「もの」。
エ 誰の見方かわからず、あいまいでとらえどころのない「もの」。

—— 線⑤の文と、その直前の文とを、文脈を変えないように一語の接続詞でつなぎたい。どのような接続詞でつなぐのがよいか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- (六) ア それから イ あるいは ウ しかし エ つまり
この文章で筆者が述べている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア わたしたちが何かを見て美しいと感じるのは、自然科学的なものの見方をしているからである。

イ 人によって受けとり方が異なるあいまいなものは、真理の領域から排除されるべきである。

ウ 自然科学により明らかになつたことも、わたしたちの生の営みに關係づけられることにより意味をもつてくる。

エ 意識して見ることではじめて、わたしたちを取り囲む物体に「表情」が生まれる。

(七) イ 「リアリティ」や「表情」がわたしたちにもたらす効果を、筆者はどう考えているか。文章中の言葉を用いて四十字以内で書け。

三

次の漢詩は、中国の唐時代の詩人丘為の作品であり、下はその書き下し文である。これを読み、各問に答えよ。ただし、漢詩は返り点を省略している。

左掖梨花 丘為

左掖の梨花

冷艶全欺雪
余香乍入衣
春風且莫定
吹向玉階飛

① 冷艶全く雪を欺き
余香乍ち衣に入る
春風しばく定まること莫かれ
② 吹いて玉階に向かつて飛ばしめよ

(注) 左掖||中国にあつた役所

梨花||梨の花、花びらは白色
余香||漂つてくる香り
乍||すぐに

冷艶||冷ややかな美しさ
入衣||人の衣につく
莫定||吹きやむな

玉階||玉を散りばめた宮殿の階段

飛||飛ばしてくれ

(一) (三) (二)

—— 線①とは、梨の花を何と見まちがうということか。書き下し文
から一字で抜き出して書け。

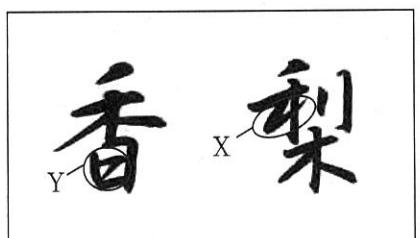
—— 線②の読み方になるように、解答欄に返り点を書き入れて示せ。

この漢詩の鑑賞として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 起句、承句では香り高い梨の花の様子が描かれ、転句、結句では春風で梨の香りや花びらが宮殿に届くことを願う気持ちがよまれている。
- イ 起句、承句では梨の花びらが衣につく様子が描かれ、転句、結句では早く宮殿に春風が吹いてほしいと願う気持ちが表現されている。
- ウ 起句、承句では美しい梨の花に感動する人々の様子が描かれ、転句、結句では宮殿にも梨の花が咲くことを願う気持ちが表現されている。
- エ 起句、承句では梨の開花を願う人々の様子が描かれ、転句、結句では春に宮殿で梨の花を観賞したいと願う気持ちがよまれている。

(四)

次の行書で書いた□内の漢字を、楷書で書いたものと比較したとき、○で囲まれた部分X、Yの行書の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。



ア 点画の丸み
エ 点画の連続
ウ 点画の省略
イ 筆順の変化
ア 点画の丸み
エ 点画の連続
ウ 点画の省略
イ 筆順の変化

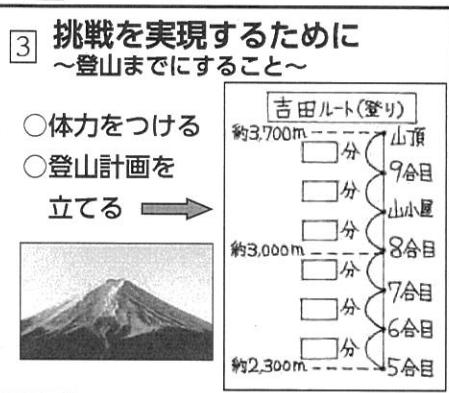
四

陽一さんのクラスでは、国語科の授業で、三分間程度のスピーチをする学習に取り組んでいる。テーマは「これから挑戦してみたいこと」で、陽一さんは、富士山登頂についてスピーチを行った。次は、陽一さんが発表の際に使用した【メモ】と【③の提示資料】、実際に行つた【③のスピーチの記録の一部】である。これらを読み、各問に答えよ。

【メモ】

発表の流れ	
① 挑戦したいことは富士山登頂	<ul style="list-style-type: none"> きっかけは祖父の体験談 富士山豆知識 日本一高い山 2013年に世界文化遺産に登録
② ルートを調べてわかったこと (富士登山オフィシャルサイトより)	<ul style="list-style-type: none"> 吉田ルートは初心者向け 須走ルートは樹林帯 御殿場ルートは距離が最長 富士宮ルートは距離は最短だが、斜面が急 →吉田ルートで登山予定
③ 挑戦を実現するために	<ul style="list-style-type: none"> 体力をつけるために毎日3kmのランニングをし、月1回、県内の山を登る。 吉田ルートを詳しく調べ、登山計画を立てる。 <p>※高山病の説明</p>

【③の提示資料】



【③のスピーチの記録の一部】

富士山登頂を実現するために、登山までにすることの二つ目は、提示資料のような登山計画を立てることです。みなさんは、高山病という言葉を聞いたことはありますか。高い山では気圧が下がり、酸素が欠乏することにより、頭痛や吐き気などが起こります。そうならないためにも、ゆっくり登ることが重要です。初心者向けの吉田ルートをよく調べ、山小屋で適度な休憩を取りなど、無理がなく、自分の体力に合った計画を立てようと思います。

(一) 陽一さんの【③の提示資料】について説明したものとして適切なもの

を、次のア～オから二つ選び、その記号を書け。

ア 伝えることを明確にするために、要点を整理し見出しを付けている。

イ 内容に説得力をもたらすために、自分の考えと根拠を書いている。

ウ 視覚的にわかりやすく伝えるために、写真や図表を用いている。

オ 多くの情報を伝えるために、文字数を多くしている。

(二) 【③のスピーチの記録の一部】からわかる陽一さんのスピーチの特徴として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 話の説得力を高めるために、具体的な体験談をいくつか紹介し、聞き手により多くの情報を伝えている。

イ 聞き手に問い合わせながら、説明が必要だと思われる用語に補足を加え、わかりやすく伝えている。

ウ 多くの人の考えを示した上で、重要な言葉を繰り返しながら、自分の考えを丁寧に伝えている。

エ 聞き手に興味や関心をもたせるために、さまざまなとえを用いながら、工夫して伝えている。

(三) あなたが、人の話を聞く上で大切だと思うことについて、次の①、②の条件に従つて書け。

条件① 二段落構成で書くこと。第一段落では、あなたが人の話を聞く上で大切なことを具体的に書き、第二段落では、その理由を書くこと。

条件② 原稿用紙の使い方に従つて、百字以上百五十字以内で書くこと。